第２回神奈川県流域下水道経営懇話会
議事録

日時：令和２年９月８日（火）14：00～16：00
場所：Web会議（ZOOM）

会議次第
１　開会
２　議事
（１）神奈川県流域下水道中期ビジョンの検証結果について
（２）神奈川県流域下水道経営ビジョンについて
（３）その他
３　閉会

【１　開会】
○県土整備局 河川下水道部 下水道課 副課長

【２　議事　（１）神奈川県流域下水道中期ビジョンの検証結果について】

（稲垣様）
質問：資料1の9ページの汚水量の減少の理由には、人口減少以外には何があるのか。
（事務局）
回答：汚水量の減少理由としては、家電製品の機能向上（節水機能）、事業場の撤退等がある。県西部地域は、人口減少の傾向が見られるため、今後も汚水量増加が見込めないと考えている。そのため、効率性を高める集約化を検討している。

（稲垣様）
質問：産業及び人口の今後の予測と経営ビジョンとリンクしているか。
（事務局）
回答：経営ビジョンは、下水道の全体計画を基本にしており、将来の流域下水道の施設規模等は、流域関連市町の計画を踏まえ、策定している。よって、市町の計画との関連性が強い。

（稲垣様）
質問：資料1のP11～12ページの防災対策の対象災害は、地震のみか。

（事務局）

回答：当時（平成23年）に作った「中期ビジョン」の中では、地震のみとなっている。

（稲垣様）

提案：最近の状況を見ると、水害のことも考えなければならないと思う。

（稲垣様）

質問：資料1の22ページの省エネ機器の導入、24ページの汚泥処理過程における取組、25ページの新エネルギーの導入について、評価に、他の項目とは異なり、今後の展望や課題等が記載されていない。これらの項目は既に達成済みという事か。

（事務局）

回答：今後も継続して実施すべきものと考えており、資料1の27ページに、まとめとして、これらの項目の今後の展望を記載している。

（稲垣様）

質問：現在処理水の親水利用は難しくなっており、今後場外での利用は見込めないということか。

（事務局）

回答：場外で散水利用した時期もあったが、親水利用にかかる基準が変わってしまったため、人が触れる可能性のある場所での利用は難しくなっている。そのため、処理水の有効利用にかかる技術の開発を期待したい。

【２　議事　（２）神奈川県流域下水道経営ビジョンについて**】**

（稲垣様）

質問：経営ビジョンは今後10年間だけが対象か。

（事務局）

回答：経営ビジョンは10年の計画であるが、財政の見通しでは10年より先のことも評価しながら検討していくことを考えている。施策には今後10年間の取組みを記載した。ただ、10年経つ前に見直さなければならない部分が出てくるので、現時点における10年間の取組みとなる。

（稲垣様）

質問：土木、建築系の施設は、10年間、整備を行わないとのことだが、災害のリスクを考えると、整備の優先順位付けやリスクが高い施設の特定は行っておいたほうが良い。整備は10年より後になるかもしれないが、どこかで順番を決める作業が必要になる。

（事務局）

回答：資料2の31ページに記載している改築方針のとおり、耐用年数が短い機械・電気施設は、頻繁に改築を行う必要があるが、標準耐用年数が50年と長い土木、建築施設は、修繕やメンテナンス等を行うことで100年以上使用したいと考えている。そのために、5～7年毎に定期点検を実施し、劣化が見られた箇所は修繕を重ね、大きな改築更新を行わないようにする。この対応と並行して順位付けを行っていきたい。

（稲垣様）

質問：土木・建築物については5～7年毎に点検を行い、機械・電気施設については改築の対象を厳選し、また、耐用年数をできるだけ伸ばしていくということか。

（事務局）

回答：機械・電気施設は、一定の耐用年数で更新したいが、高額になるものが多いため、優先順位を設けることとした。また、現在策定中の「ストックマネジメント計画」では、今後100年で改築更新を平準化している。

（稲垣様）

質問：改築更新の優先順位はどうやって決めるのか。

（事務局）

回答：下水処理で最低限必要な、下水をくみ上げるポンプ、その電源、汚れを分離するための沈殿施設、放流時に消毒するための消毒施設、これらを優先している。また、下水処理に直接関係のない施設、例えば脱臭施設などは優先順位が低いと考えている。

（稲垣様）

質問：資料22ページに記載している液状化による管渠施設の被害を課題として挙げているが、本経営ビジョンでは、対応をどのように考えているのか。

（事務局）

回答：流域下水道の管渠は、地中深いため液状化の影響は受けにくいと考えている。22ページ液状化の被害は、他の自治体の公共下水道を地震被害状況の例として掲載したものである。

（稲垣様）

質問：BCPについて、訓練は具体的にどのようなことをやっているのか。また、どういう想定でのBCPなのか。

（事務局）

回答：当初、地震災害を想定してBCPを策定したが、浸水などの新たな被害も発生していることから、これらを新たに盛り込んだBCPを今年策定していく予定である。

訓練については、様々な災害による事故を想定して、メールを使った連絡体

制の訓練や業者が参加する実地訓練などを行い、BCPの実効性を高めている。

（稲垣様）

質問：BCPの訓練とは別に、災害が発生した時の対応マニュアルがあったり、訓練を行ったりするものか。

（事務局）

回答：災害時の対応は、基本的にBCPに記載している。実効性を高めるため、訓練を行い、BCPを見直している。

（稲垣様）

質問：コストに反映されないソフト施策を経営ビジョンに位置付けていく意味は何か。

（事務局）

回答：ソフト施策と言っても、資材の備蓄などコストに反映するものある。また、業者との協定もコストに影響することが考えられる。また、耐水化では、国もハード整備とあわせてソフト対策で対応するとしており、ソフト対策に触れないわけにはいかない。

（稲垣様）

質問：38ページに、誤って接続した雨水管から管きょに大量の雨水が侵入しているとあるが、これはよくあるのか。

（事務局）

回答：調査していくと、雨樋の接続先が汚水管となっていることがある。

（稲垣様）

質問：下水道管理者の管理範囲を超えるところで、起きているというか。

（事務局）

回答：下水道管理者が行っていない宅内桝の先の接続で起こるため、指導だけで直接、直すことができない。お願いしても、なかなか進んでいない実態がある。

【２　議事　（３）その他】

なし